

抗 Rad51 (ヒト) 抗体 (ニワトリ IgY Affinity Purified)

免疫動物：ニワトリ

ポリクローナル抗体：精製 IgY (ニワトリ IgG) をレコンビナント Rad51 で affinity 精製

70-009 20ul,

70-010 50ul

ヒトの Rad51 タンパク質は大腸菌の RecA タンパク質や酵母 Rad51 タンパク質の機能的及び構造的ホモログであって、相同的組換え及び組換え修復において中心的な役割を果たし、相同な DNA 鎖の交換反応を促進する機能をもっている。Rad51 のパラログとして、Dmc1, Rad51B, Rad51C, Rad51D, XRCC2, XRCC3 が知られておりこれ等は Rad51 や Rad52 と複合体を形成して、組換え反応に関与している。更にヒト Rad51 タンパク質は乳ガン原因タンパク質 BRACA1, BRACA2 や癌抑制タンパク質として有名な P53 とも結合する事が知られていて、ゲノムの情報の安定的維持に重要な役割を果たしている(1)。

本品は大腸菌で組換え体タンパク質として発現させて、高度に精製した全長のヒト Rad51 タンパク質を抗原として免疫したニワトリの卵黄から IgY を独自の技術で高純度 (>98%) に精製したものである (図 1)。この抗体を用いて、ウェスタンブロッティング法で HeLa 細胞溶解液から 37kD の Rad51 タンパク質が検出された (図 2 では 40kD の位置)。本品は更に Rad51 タンパク質を用いた affinity 精製することによって、抗体価が 30 倍程高くなっている。

用途

- 1) ウェスタンブロッティング (1,000~5000 倍希釈) (図 2)
- 2) 免疫沈降実験によって、種々のタンパク質との相互作用同定出来る。
- 3) 間接免疫抗体法で Rad51 タンパク質の細胞内発現や染色体上

の DNA 損傷部位への局在を調べることが出来る (2)。

性状： 0.2M NaCl, 0.1M リン酸ナトリウム(pH7.0)溶液

保存： -20℃

データリンク UniProtKB/Swiss-Prot [Q06609](http://www.uniprot.org/entry/Q06609) (RAD51_HUMAN)

文献

1. Friedberg EC *et al* *DNA Repair and Mutagenesis* 2nd ed., ASM Press (2006)
2. Tashiro S *et al* "Rad51 accumulation at sites of DNA damage and in postreplicative chromatin." *J Cell Biol* **150**: 283-291

(2000) PMID: [10908572](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/10908572/)

関連製品：

[10-001](#) Rad51 タンパク質 (ヒト)

[10-003](#) Rad52 タンパク質 (ヒト)

[70-001](#) 抗Rad51 (ヒト) 抗体、ウサギ血清

[70-003](#) anti-Rad51 (human) antibody, chicken antiserum

[70-005](#) 抗Rad51 (ヒト) 抗体、ニワトリ IgY

[70-007](#) 抗Rad51 (ヒト) 抗体、Sepharose-conjugated IgY

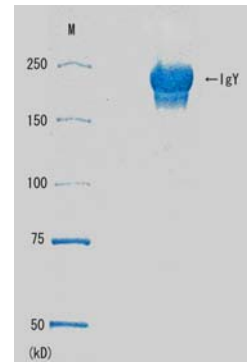


図 1 精製 IgY の SDS-PAGE 解析 (2ME 無しのサンプルバッファー使用)

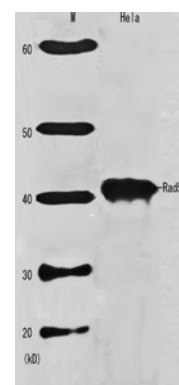


図 2 HeLa 細胞中の Rad51 タンパク質のウェスタンブロット法による検出